

# わが

## 人が人を呼ぶまちづくり 市民の魅力アップを支援！

兵庫県南あわじ市は、淡路島南部に位置する兵庫県最南端の市です。渦潮で有名な鳴門海峡を眼下に望む大鳴門橋<sup>おおなるとしましやう</sup>で徳島県鳴門市ともつながっています。東は大阪湾、南は太平洋へと続く紀伊水道、西は瀬戸内海と周囲三方を海



世界遺産登録を目指す鳴門の渦潮

に囲まれ、四季を通して温暖な気候です。そうした自然環境の中、全国的に有名な淡路島たまねぎをはじめ、タイ、ハモ、淡路島3年とらふぐ、淡路ビーフ、淡路島牛乳など、豊富な食材に恵まれた地域です。

### コロナ対策

新たな変異株の発現など、いまだ収束を見通せない新型コロナウイルス感染症ですが、各自自治体におかれては、国県の支援策も活用しつつ、さまざまな対策が講じられていくと拝察します。本市でも「必要なところに必要な対策を」との基本方針の下、国県施策の積極的な活用を市民に促し、それでは対応できない部分を本市が丁寧に取り扱っていくという姿勢で、各

種対策を講じてきました。

コロナ初期には、コールセンターや市民相談窓口をいち早く設置し、市民・事業者への確実な情報提供を図りました。特別定額給付金の支給に当たっては、全国トップクラスのスピードで給付金を支給（令和2年5月に8割支給完了）し、不安感の払拭、安心感の醸成に努めました。同時に、地域経済の安定確保に向け、「ジモ得キャンペーン」と銘打ち、市民がコロナ対策を徹底した飲食店で市内産品を使用したメニューの食



市内飲食店と協力したジモ得キャンペーン

事をした際に、最大半額を補助するといった事業を展開しました。また、政策が一方通行とならないよう、市内飲食店に市幹部職員が直接足を運び御用聞きして回るなど、きめ細かな対応を心掛けました。

果たして、東京豊洲市場など主要市場への出荷が停滞し暴落していたハモの市場価格が当該キャンペーン期間に上昇に転じるなど、市民の地元産品への消費増が低迷する価格を刺激し上昇させ、地元生産者への支援にもつながるという好循環を生み出すこととなりました。

このことは、市民・事業者・行政が協働し知恵を出し、トライして一つの行動につながるという意味で、今後の市政運営においても大きな収穫であったと考えています。

### うずしお、観光誘客

鳴門海峡では世界最大規模の渦潮を見ることが出来ます。鳴門海峡の渦潮は、太平洋と瀬戸内海の



ノルウェー王国ボーダ市と友好連携協定を締結

干満差によって生じる潮流と、海峡の特殊な地形が織りなす、大自然の奇跡のたまものです。その類いまれなる自然現象を世界遺産に登録するべく、兵庫県・徳島県など関係自治体と協力し推進運動を展開しています。また、島内の海岸清掃イベントに1300人以上が参加するなど、住民の活発な活動もいただいています。

さらに、令和2年12月には同じく渦潮を有するノルウェー王国ボーダ市と友好連携協定を締結し、観光や人材交流、渦潮世界遺産登録に向けた可能性調査など、各分野においてまさにクロスボーダーな取り組みを促進しています。来る2025年には大阪・関西万博が開催されます。この機会を確実に捉え、交流人口の拡大を図り、地域のさらなる活性化につなげることが肝要です。端緒として、淡路島の3市（北から淡路市・洲本市・南あわじ市）と兵庫県の協力により、淡路島観光戦略室を設置しました。軸とな

るコンセプトワークから取り組みを開始し、淡路島の観光を盛り上げる推進役と位置付けています。

## 移住・定住

近年、地方居住の再評価、テレワークの進展など、働き方やライフスタイルに対する意識変化が急激に進みました。移住・定住をさらに促進していくには、増加する意向者の新たなニーズを具体的に把握し、的確にフックする施策を提示することが必要と考えています。SNSなどを活用した本市の魅力発信やさまざまなニーズに応じた相談体制の構築、支援策の充実など、今の情勢に沿う施策展開はもちろん、「住みたい」「住んでみようかな」と思ってもらえる機会の創出が求められます。

また、本市の総人口は、自然減に加え、高校卒業後に大学進学や就職などで島外への転出者が多く、UJイーターンなど市内に転入する人の数を上回る構造的な社会減が同時に進行しています。現状では、多面的な取り組みを一つ一つ着実に展開して、人口減少速度の緩和につなげていくことが大切だと考えています。

## 市民の魅力アップを支援

本市がこれから目指す姿は、「市民一人一人に魅力があり、その魅力が吸引力となって人が人を呼ぶまち」であると考えています。居住者や意向者に「住み続けたい」「住んでみたい」と実感してもらえることで移住定住が促進されるまちや、観光に訪れる人と住民

が関係性を築き「また来たい」と思ってもらえるまち、そして、農畜水産業や伝統産業など担い手が確保され、魅力が継承されてまた人を惹き付けるまちです。市民一人一人が魅力にあふれ、主体的な行動で地域社会や外部にも良い影響を及ぼす。その実現を支援する行政として、さらに機能していきたいと思えます。

## プロフィール

- ◆ 面積 229.01km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 4万5914人
- ◆ 世帯数 1万9780世帯

〔将来都市像〕だから住みたい 南あわじ 人がつながる 笑顔あふれるふるさとづくり

〔まちの特徴〕淡路島たまねぎ、ブランド牛の淡路ビーフをはじめ豊富な食材で自給率は100%以上。「国生みの島・淡路」として、日本遺産にも認定

〔市町村合併〕平成17年1月11日、緑町、西淡町、三原町および南淡町が対



南あわじ市長 守本憲弘



等合併

〔特産品〕たまねぎ、レタス、淡路ビーフ、タイ、ハモ、淡路島3年とらふぐ、淡路島サクラマス、手延べそうめん、淡路瓦

〔観光〕渦潮、慶野松原（日本の夕日百選）、灘黒岩水仙郷、淡路人形浄瑠璃（国指定重要無形民俗文化財）、淡路ファームパークイングランドの丘、淡路島牧場、南あわじ温泉郷、おのころ島神社

〔イベント〕南あわじ音楽祭、アジア国際子ども映画祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# わが

# 「人・自然・文化―島の宝が育つまち」を目指して

### 種子島から全国へと 広がった火縄銃が集結

天文12（1543）年に種子島最南端の門倉岬に中国船が流れ着き、ポルトガル人から火縄銃が伝えられました。幾多の困難をくぐり、初の国産銃製造に成功し、さ

さまざまな火縄銃が各地で傳承されていきます。

令和3年11



全国から6団体（鉄砲隊）が集った、火縄銃大会

月、鉄砲隊6団体が西之表市に集結し、火縄銃大会が開催されました。「火縄をつけて」「火縄を切って」「構えて」「放てー」。種子島火縄銃保

にしのおもて

存会の会員の1人として、私も試

射演武に加わりました。新型コロナウイルス感染症の影響が残る中、鉄砲伝来の地で、全国で継承されてきた火縄銃がごう音を響かせてくれたことは、大変感慨深いものがありました。火縄銃でつながった全国の皆さまとの交流拡大、さらには本市の魅力の一つとして、情報発信などに努めてまいりますと考えております。

### 美しい自然と、歴史の浪漫を感じる西之表市

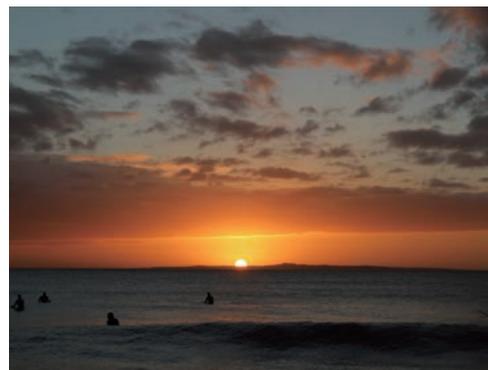
鉄砲伝来、ロケット、サーフィンの中心地として人気の種子島。青い海に囲まれ、豊かな農村風景が広がる「種子島」の北部に本市は位置しています。年平均気温は19・5℃とすこぶる温暖で、5月から10月までの月平均気温は20℃

を超え、真夏の日照は強いですが、常に快い海風が吹き、九州本土よりむしろ涼しくらいです。

白いビーチが広がる浦田海水浴場は、日本の水浴場88選にも選ばれ、多くの観光客が訪れます。サーフスポットとしても人気の高い能野海岸は、馬毛島に沈む夕日がきれいです。東海岸の高台に位置する天女ヶ倉公園からは、広大



広大な太平洋を一望できる天女ヶ倉公園



馬毛島に沈む夕日とサーファー（能野海岸）

な太平洋を一望できます。市街地には、島主であった種子島家の居城跡（現・榕城小学校）や、国登録有形文化財に指定された旧上妻家住宅（武家住宅）、国産第1号の火縄銃を製造した八板金兵衛清定像など、史跡・文化財スポットも多く点在し、自然と歴史の浪漫を感じていただけます。

### 自治体として初の「ヨガの聖地」に認定

令和2年に、一般社団法人全日本ヨガ連盟が選定する「ヨガの聖地」に全国の自治体として初めて



日常にヨガの風景を(浦田海水浴場にて)

認定されました。ヨガの聖地とは、ヨガによる健康寿命増進、固有の文化や産業を軸とした地方創生と活性化など、全日本ヨガ連盟が定めた聖地基準を満たしている場所を認定するもので、本市の「自然」「文化」「歴史」と地域おこし協力隊員を中心としたヨガを広める活動が総合的に評価され、朝日や夕日、海といった地域資源と、神社仏閣などのエネルギーと一緒に感じてもらえる市内3カ所がヨガの聖地に認定されました。

そして、全日本ヨガ連盟と連携し、地域活性化および地域課題解決を図ることや、地域づくりの中にヨガを取り入れ推進することにより、市民サービスの向上を図ることを目的とし、地域活性化推進連携協定を締結しました。市民の健康増進に加え、観光ツアーの造成や聖地間ネットワークの構築による交流人口の拡大、地域資源の活用など、事業展開を図ってまいりたいと考えております。

### 本市の未来をつなぐ、まちづくりの基本計画の策定

令和4年度から「第6次西之表市長期振興計画後期基本計画」がスタートします。豊かな歴史・文化・自然を力に、市民の力を集結し、持続可能な社会づくりに努めていくことが、今を託された私たちの責任であり、未来につながる礎となると考えております。

「ここに暮らすひと」と「ここにある資源」が「地域の力」であり「宝」です。この宝を守り、磨きをかけるため、市役所が有する資源(ヒト(組織・職員)「モノ(財産)」「カネ(財政)」「情報(計画・情報・広報)」)について、効果的・効率

的に活用し、「生産性の向上」を図り、課題解決を強力に推進しなければなりません。新型コロナウイルス感染症やサツマイモ基腐病など喫緊の課題に迅速かつ適切に対応しつつ、ポストコロナにおいて、市民が安心して安全に暮らせるまちづくりを推進します。また、校区や自治会組織などの活動を支援し、多様な主体との連携・協働により地域力の再生を目指し

### プロフィール

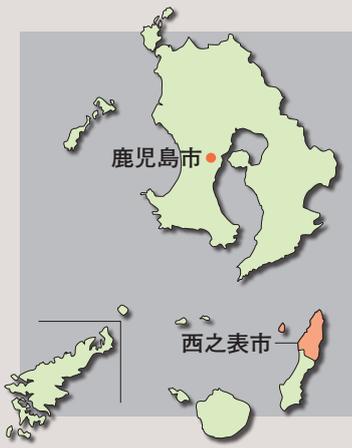
- ◆ 面積 205.66km<sup>2</sup>  
(うち馬毛島8.17km<sup>2</sup>)
- ◆ 人口 1万4780人
- ◆ 世帯数 7916世帯

〔将来都市像〕人・自然・文化―島の宝が育つまち

〔まちの特徴〕鉄砲伝来・ロケットの島「種子島」の北部に位置し、サーフィンの中心地として知られる美しい青い海には、多くの観光客が訪れる。温暖な気候に恵まれ、豊かな自然に囲まれ



西之表市長  
八板俊輔



た、人情あふれるまち

〔特産品〕安納いも、いも焼酎、種子島茶、海産物(ナガラメ・イセエビ・トビウオ・アサヒガニ)

〔観光〕浦田海水浴場(日本の水浴場88選)、能野海岸、鉄砲館、赤尾木城文化伝承館「月窓亭」

〔イベント〕種子島鉄砲まつり、ヨットレース TANEGASHIMA CUP、大的始式

ていきます。さらに、行政におけるデジタル化を推進しながら、市民サービス向上を目指し、厳しい社会環境、財政状況下で、積極的に課題解決を推進することで住民満足度の向上を図ります。

「人・自然・文化―島の宝が育つまち」を目指すまちの姿とし、市民と一丸となって、活力に満ちた時代の西之表市を創造してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。